

故郷讃岐を

デザインで引き立てた男

和田邦坊



高松市立山田中学校



二年

宇野

光里



調べたきっかけ

私が和田邦彦にフリスケをしたとき、かれは、以前に父さん美術会館に訪れたことがあり、そのときにこんな有名な画家の人が香川県出身なんだ、と関心があったので詰問することにした。

目次

表紙『故郷^{コキョウ}讃岐をラガンで引き立てた男 和田邦太郎』

書周へたを、かけ・目次 | p

和田邦士のプロフィールと人生 2p

和田邦坊のてがけした作品 3~5p

0 代表作 3p

C) 代表的な和田邦方に関あった番川のデカイニ4~5p

・多分物かまて" 4p

・灸主人本鋪石段や5p

灸まん美徒宇館にいてみて6p

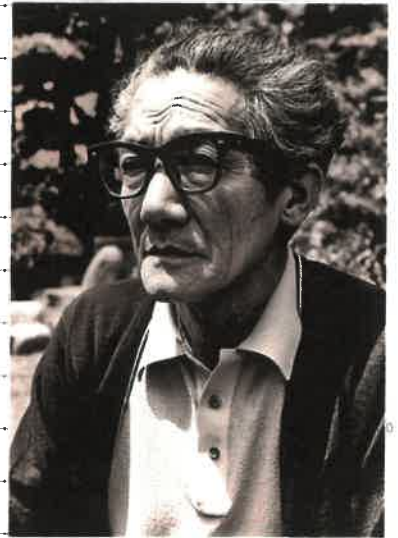
和田邦坊と菊池寛の関わり 7p

7. 2. 8 p



和田邦坊のプロフィールと人生

和田邦坊は、明治三十一年（一八九九年）に琴平町に生まれました。本名は邦夫です。昭和三十五年（一九六〇年）から、畑田十三塚に居住しました。父の菊池が山陽新報社（現山陽新聞社）香川新報社等の記者だった影郷から大正十五年（一九二六年）に東京日日新聞（現毎日新聞）に入社しました。記者や風刺漫画家として活動しました。映画化された『うちの女房にヒゲがある』などの小説で手かけました。東京日日新聞社を退社してから帰郷して画家やデザイナーとして独自の画風を開きました。昭和四十年（一九六五年）に栗林公園内の讃岐民芸館初代館長となりデザイン研究と民芸品の普及伝承に功績を上げました。



綾率町にある
和田邦坊の自
宅は、琴電榊頭
丘駅の近くにあり、電車を利用して栗林公園まで出勤しては
した。この家で晩
年まで過ごし、平
成四年（一九九
二年）に九十三
歳で亡くなりました。

↑ 和田邦坊邸

和田邦坊がてがけた作品 の代表作



成金栄華時代は学校の教科書にも載るなど広く知られる和田邦坊の代表作です。第一次世界大戦に登場した船成金を比喻している漫画で、暗い場所で靴を探している女中に対し、成金の男が百円紙幣を燃やして明るくしているという内容です。燃やしていたのは100円ですが、これは現在の価値に換算すると30万円ほどになります。また、この作品は中央美術学校から刊行された『現代漫画大観3巻 漫画明治大正昭和史』の扉絵で発表されています。

成金栄華時代 (昭和三年)

ウチの女房に髷があるは映画化もされた和田邦坊のユーモア小説です。ウチの女房に髷があるが原作となった映画の主題歌は、妻に頭が上がない夫の立場で綴られていて、多くの有名人たちがカバーし、戦後も歌い継がれています。昭和二十九年に同名のタイトルで二度目の映画化を果たしています。



ウチの女房に髷がある
(昭和十一年)

○代表的な和田邦坊が関わった香川のデザイン

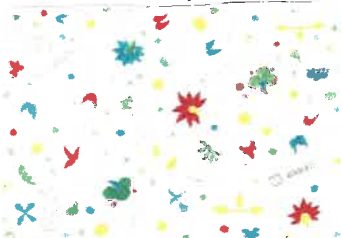
・名物かまど



「名物かまど」は、和田邦坊が香川県でパッケージデザインを手掛けるきっかけとなった店です。戦後、かまどの創業者の荒木三郎は、新しい店にふさわしいデザインを求めて何度も邦坊の家に訪れてプロデュースの依頼をしました。相談のたびに断られていましたが、最終的に熱意に負けて、邦坊は依頼を引き受けることになりました。

邦坊のプロデュースは多岐にわたる、包

装紙、パッケージにとどまらず、広告や菓子のロゴや形にも携わりました。また、「名物かまど」が高松へ進出する足がかりとして、かまど茶会という新しい菓子の発表を兼ねた謝恩イベントを邦坊のアイデアから始め、当時扇風機の普及で丸扇の目扇の存続が危ぶまれる中、木版画の飾り団扇を参加者に贈呈することも提案し、自ら絵を担当しました。「名物かまど」は、邦坊のデザインを代表する有名なパッケージが多く、特に私が気に入っているパッケージは、弁慶の図柄が目を引くショッピングバックで、力強い色使いが個性的で記憶に残りやすいからです。他にもかまどパイの包装紙も印象的



です。かまどパイの包装紙は 版画 弁慶 白地に黄色、水色、緑色の ショッピングバックの原案。明るい色で素朴で庶民的という邦坊のイメージとは少し違う雰囲気です。

かまどパイの包装紙

・ 冬まん本舗南石段や

「冬まん」は昭和二十三年(一九四八年)に創業した店で、金刀比羅宮の参道に本店があり、お冬の形をした饅頭「冬まん」が看板商品です。「冬まん本舗南石段や」は、和田邦坊がプロデュースして誕生しました。創業時は「こんぴら堂」という屋号で饅頭や煎餅の製造・卸をしていました。バブルの盛り上がりには伸び悩み、新しい事業を成功させたいと考え、地元に住んでいた邦坊に協力の依頼をしました。当初、邦坊はあまり事業に関心を寄せず依頼を断り続けていました。しかし「本物の琴平の土産物を作りたい!」という真摯な思いを受けて、新商品の開発からプロデュースすることになりました。ショッピングバッグや箱のパッケージは、赤い栗色ベースとなり、商品名の「冬まん」は白文字で「名代」「琴平名物」は黄色の文字です。「名代」は「名物」と同じ意味をもつ言葉で、老舗の風格を言葉から演出しているデザインです。



パッケージ



谷手人美術館にいてみて

○ 谷手人美術館とは

谷手人美術館は和田邦坊の業績を顕彰する文化施設で邦坊の遺族だけでなく関係施設からの寄贈・贈入を受け蒐集活動が続けていて、邦坊の詳細な画業を知ることが出来ます。

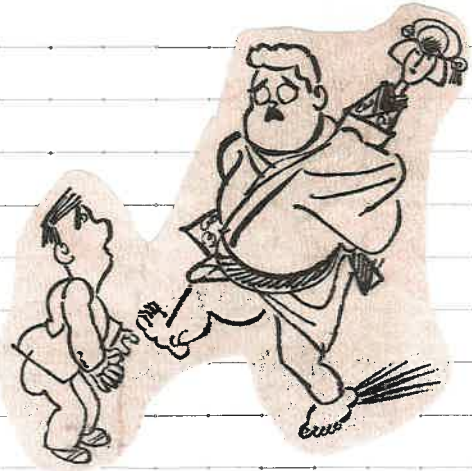


○ 谷手人美術館にいてみて

以前に谷手人美術館に訪れたことがあって、この際に再び来ようと思ったので訪れました。私が訪れた時、ちょうど「和田邦坊の絵葉展」をしていて、年賀状などが飾られており、作品の中にかまと「谷手人」と書かれていたものもあり、それほど「和田邦坊のデカインは香川のシンボリックなものなのだ」と思いました。

和田邦坊と菊池寛の関わり

菊池寛は、香川出身の小説家で、代表作に『屑土の狂人』『父帰る』などがあり有名です。和田邦坊と菊池寛は同じ母校で学び、同じ新聞記者という職を経るなど、共通点が多いです。二人の共通する母校は四番丁小学校で、寛の父は小学校で庶務係として勤めていました。邦坊が東京日日新聞で記者として勤めていたときに一時期二人は同じ会社の「顧問」と「社員」という関係でした。また、邦坊が各界の著名人にインタビューを行う「世渡り問答」の菊池寛篇で、邦坊が寛がいる社長室に行くエレベーターが怖くて乗らないと言い出したときに、寛はこっちから出て行ってやる、とインタビューのためにあさあさ降りてくるという寛の気さくな様子が伺えます。邦坊はインタビューの絵を描く際には必ず相手を大きく、自分を小さく描いていて、最初寛に対面した際もかなりの大男に描かれていましたが、話が進むにつれ身長差は小さくなっていき、話が結ばれる頃にはほぼ同じ等身になっており、二人が次第に打ち解けていく様子がわかります。



まとめ

香川が「ほこる画家」である和田邦坊を調べて考えたことは、いつも見ていたデザインが和田邦坊の作品で「身近な人だな」と思ったことです。また、太い筆で明るい色を使っていてとてもかわいらしい絵だ」と改めて感じました。菊池寛との関係性についても知れて、次から和田邦坊の作品を見る際に前とは違った観点から見てみたいと思いました。



讀みの山

昭和50年代

東京のうどん屋
で見た作品。職
人製作で、筆
力とキレが

参考・引用文献リスト

作品名：故郷讃岐をデザインで引き立てた男 和田邦坊

(本を参考にした場合)

氏名：宇野 光里

NO.	著者名	書 名	出版社名	出版年	ページ	図書館名 請求記号
1	西谷美紀	邦坊青春スクラップBOX	灸まん美術館 和田邦坊画業館	2023年	84	高松市香川図書館
2	西谷美紀	和田邦坊デザイン探訪記1	和田邦坊リサーチプロジェクト	2017年	52	〃
3	西谷美紀	和田邦坊デザイン探訪記2	和田邦坊リサーチプロジェクト	2019年	76	〃

作品の裏面に貼付してください。

！個人提出の場合は記載不要です

「第13回 高松市 図書館を使った 調べる学習コンクール」作品応募カード		学校用受付番号 (学校記入欄) 2	作品番号(事務局記入欄) 中・夢・牟 国・香		受付No 8
		(□に✓を入れてください。) ☐ 小学校1・2年生の部 ☐ 小学校3・4年生の部 ☐ 小学校5・6年生の部 ☐ 中学生の部			
部 門					
タイトル	故郷讃岐をデザインで引き立てた男 和 田 邦 坊				
ふりがな	う の ひかり				
氏 名	宇 野 光 里				
学 校	高松市立 山 田 小学校 / 中学校 [2] 年生				

※作成者が複数の場合は全員の名前を記載してください。